

## 平成29年度英語教育推進リーダー中央研修プログラム (案)

**小学校****研修参加者**

- 都道府県教育委員会及び知事部局私学担当課により推薦され、文部科学省が研修参加を決定した小学校教員

**研修の目的**

研修終了時に研修参加者が、特に次の項目において、次期学習指導要領及び新しい英語教育の在り方の趣旨に沿った指導や評価が実現できるようになることを目指す。

1. モチベーションが継続する、楽しい英語学習方法を、体験を通して修得する。
2. 小学校における外国語活動及び外国語科について、体験を通してより深く理解し、授業での実践に役立てる。
3. 教師自ら主体的に英語を学び続けようとする態度を養う。

研修終了時には、英語力という点から、研修参加者は次のことができるようになっていく。

- 児童の実態に合わせて、適切な教室英語を使う。（ほめ言葉、指示、説明など）より主体的に、自信をもって、ALT等と授業について話し合う。
- 基本的な英語の音声の特徴を捉え、英語を正しく発音する。（強勢、イントネーション、区切りなど）
- 発音と綴りの関係について基本的なことを理解する。

研修終了時には、教授法という視点から、研修参加者は次のことがよりできるようになっている。

- 設定した目標を達成するために適切な活動を選択・配列し、実施する。
- 児童のコミュニケーションへの関心・意欲・態度を高める活動の種類を増やす。
- 児童を巻き込み、語いや表現に慣れ親しませたり、習得させたりするために、絵本を活用する。
- 英語特有のリズムやイントネーション、語いや表現に慣れ親しませたり、習得させたりするために、歌を活用する。
- 絵本を、自信をもって生き生きと、児童の興味をひき付けるように読む。

研修終了時には、英語学習という視点から、研修参加者は次のことができるようになっていく。

- 自分自身の英語学習計画を立てる。
- 自身で英語学習を進めるにあたり、様々な方策を活用する（多読など）。
- 無料オンライン教材とその利用法について、より深く理解し、自身の英語力向上のために利用する。

---

## 全体の構成・研修の進め方

### 第1段階 集合研修1（実践のための研修）

- 4日間の研修を受講する。
- 研修に当たっては、①研修参加者本人が行った授業を録画したUSBメモリー等、②当該授業のねらいと簡単な流れを含む授業指導案を提出する。（詳細は3月中に連絡）

### 第2段階 授業実習

- 集合研修1で指示された課題（授業計画）と振り返り、授業実践の記録等を行う。
- オンライン教材等を通して、英語力向上に向けた自主研修を継続的に行う。
- 研修参加者が参加するオンライン専用サイトを通じて、参加者同士や講師、研修実施団体と継続的に連絡を取り合う。

### 第3段階 集合研修2（研修実習のための研修）

- 集合研修2の終了後に実施する各地域での研修実習を運営するために、学習理論の習得と、マイクロ・トレーニングの演習を通して、「英語教育推進リーダー」としての知識と技術を養う。
- 研修参加者は、①第2段階で実施した授業を録画したUSBメモリー等、②当該授業のねらいと簡単な流れを含む授業指導案を提出する。（詳細は別途連絡）

### 第4段階 研修実習

- 教育委員会が主催する研修実習において、指導主事等の指導のもと研修を計画するとともに、講師を務める。  
研修の内容及び時間は、文部科学省の定める内容に沿うものとする。（研修参加者が各地域で研修実習を行う際の解説書や教材等は提供される。）
- 研修実習を実施した後、実施した研修実習についての自己評価を行い、報告する。
- 研修実習を実施する前及び後において、オンライン専用サイトを通じて、経験を共有する。

※集合研修1・2及び研修実習の内容については、別途連絡する。

### 【研修参加者の推薦にあたっての留意事項】

実施要項「5. (1) 参加資格」に加え、以下の点に留意すること。

- 研修前に課される課題（授業のビデオ撮影や、授業概要の作成など）に取り組むこと。
- 研修で得た知識や技術を、日常の授業で実践すること。
- PC メール及びオンライン専用サイト（詳細は後日連絡）でのコミュニケーションが可能であること。
- 自身の英語力向上に向けてオンライン教材に継続的に取り組むこと。
- 研修実習を実施する際、所定の教材を使用するとともに、定められた報告を行うこと。

### 【都道府県教育委員会（推薦者）の研修参加者に対する支援】

推薦者である都道府県教育委員会は、研修参加者に対して以下の支援を行うこと。

- 研修参加者の中央研修への参加や課題への取組等に対して適切な支援を行うこと。  
また、所属校において、研修で得た知識や技術を授業で実践することができるように、必要な支援を行うこと。
- 研修等計画書を作成し、成果普及のための研修等を実施するとともに、定められた報告を行うこと。
- 研修参加者が講師を務める研修実習を実施するにあたり、適切な支援を行うこと  
（準備時間の確保、研修日時や会場の設定、配布資料の準備など）。

## 平成29年度英語教育推進リーダー中央研修プログラム（案）

**中学校・高等学校****研修参加者**

- 教育委員会より推薦され、文部科学省が研修参加を決定した中学校及び高等学校の英語担当教員

**研修の目的**

研修終了時に研修参加者が、特に次の項目において、次期学習指導要領及び新しい英語教育の在り方の趣旨に沿った指導や評価が実現できるようになることを目指す。

- 生徒の総合的なコミュニケーション能力の育成
- 英語を用いた言語活動が中心となった授業
- 生徒の英語学習に対するモチベーションの向上
- 生徒の英語による言語活動が中心の指導方法
- 基本的に英語で行う授業
- 4技能の能力を適切に測ることができる評価法

具体的には、研修終了時には、研修参加者は次のことができるようになっている。

- 生徒からの視点で研修を体験することにより、総合的なコミュニケーション能力を育成するための授業の利点をより深く理解する。
- 基本的に英語で授業を行うことを通して、生徒が英語に触れるとともに実際に英語を使用する機会を増やす。
- 言語活動を行う際、英語で効果的に指示することができるとともに、生徒とのインタラクションを図りながら各言語活動を展開する。
- 聞いたり読んだりしたことに基づいて、話したり書いたりすることによって発信する能力を向上させるための様々な言語活動の内容及び指導方法を知り、それらを指導の目的に応じて選択する。
- 生徒にとって学習する必然性があり、興味深い授業を行うために、教科書や他の関連教材を多様な方法で活用する。
- 教材の内容理解にとどまらず、聞いたり読んだりしたことに対する自分の意見や考えを発する言語活動により大きな比重を置くことによって、生徒が主体的に内容と関わりながら4技能を活用する授業展開をする。
- 生徒の認知的なスキルを養うために、リーディング教材を使用する。
- 教科書以外のオーセンティックな教材及びその扱い方を知り、生徒の知的好奇心の喚起やモチベーションの向上に結び付ける。
- 生徒の英語学習に対するモチベーションを向上させるために、学習している内容について自己関連性を高めるための機会を与える。

- 認知的な側面を重視する活動を通して、生徒が新しい語いや表現を実際のコミュニケーションの場面で使うことができるようになるための手助けをする。
- 生徒が適切な発音で発話したり、自然な速さで話される会話の理解を高めたりするために、発音、リズム、イントネーションに関する指導を活用する。

---

## 全体の構成・研修の進め方

### 第1段階 集合研修1（実践のための研修）

- 5日間の研修を受講する。
- 研修にあたっては、①研修参加者本人が行った授業を録画したUSBメモリー等、②当該授業のねらいと簡単な流れを含む授業指導案を提出する。（詳細は3月中に連絡）
- 研修初日には、英語力確認テスト（4技能、英語教師向けの内容）を行う。本テストにより研修参加時点での英語力を把握し、各自の英語力の更なる向上のための計画（研修期間中に作成）に役立てる。試験結果は研修期間中に返却予定。

### 第2段階 授業実習

- 第1段階で指示された課題（授業計画）とリフレクション（集合研修の振り返りや授業実践の記録等）を行う。
- オンライン教材等を通して、英語力向上に向けた自学自習を継続的に行う。
- 研修参加者が参加するオンライン専用サイトを通じて、参加者同士や講師、研修実施団体と継続的に連絡を取り合う。

### 第3段階 集合研修2（研修実習のための研修）

- 集合研修2の終了後に実施する各地域での研修を運営するために、学習理論の習得と、マイクロ・トレーニングのセッションを通して、「英語教育推進リーダー」としての知識と技術を養う。
- 研修参加者は、①第2段階で実施した授業を録画したUSBメモリー等、②当該授業のねらいと簡単な流れを含む授業指導案を提出する。（詳細は別途連絡）

### 第4段階 研修実習

- 教育委員会が主催する研修実習において、指導主事等の指導のもと研修を計画するとともに、講師を務める。
- 研修の内容及び時間は、文部科学省が定める内容に沿うものとする。（研修参加者が各地域で研修を行う際の解説書や教材等は提供される。）
- 研修実習を実施した後、実施した研修実習についての自己評価を行い、報告する。
- 研修実習を実施する前及び後において、オンライン専用サイトを通じて経験を共有する。

※集合研修1・2及び研修実習の内容については、別途連絡する。

## 【研修参加者の推薦にあたっての留意事項】

実施要項「5. (1) 参加資格」に加え、以下の点に留意すること。

- 少なくとも英検準1級以上、TOEFL PBT 550 点以上、CBT 213 点以上、iBT 80 点以上、TOEIC 730 点以上等の英語力を有していること。推薦者においては、研修参加者の英語力を証する書類の写し等を適切に保管しておくこと。特にスピーキングについて CEFR で B2 レベルを有しており、十分なコミュニケーションが図れるだけの力があること。
- 研修前に課される課題（授業のビデオ撮影や、授業概要の作成など）に取り組むこと。
- 研修で得た知識や技術を、日常の授業で実践すること。
- PC メール及びオンライン専用サイト（詳細は後日連絡）でのコミュニケーションが可能であること。
- 英語力や教授法に関するオンライン教材等に継続的に取り組むこと。
- 研修実習を実施する際、所定の教材を使用するとともに、定められた報告を行うこと。

## 【都道府県教育委員会（推薦者）の研修参加者に対する支援】

推薦者である都道府県教育委員会は、研修参加者に対して以下の支援を行うこと。

- 研修参加者の中央研修への参加や課題への取組等に対して適切な支援を行うこと。また、所属校において、研修で得た知識や技術を授業で実践することができるように、必要な支援を行うこと。
- 研修等計画書を作成し、成果普及のための研修等を実施するとともに、定められた報告を行うこと。
- 研修参加者が講師を務める研修実習を実施するにあたり、適切な支援を行うこと（準備時間の確保、研修日時や会場の設定、配布資料の準備など）。